

令和2年度主催事業「環（CAN）ボラ プロジェクト」事業報告

○開催日：第1回10月25日 第2回12月13日 ○参加者数：第1回26名 第2回29名

○開催場所：第1回 うきは市かわせみホール・朝倉志波地区
第2回 朝倉市らくゆう館・朝倉杷木地区寒水地区



事業のねらい

環境保全活動を推進する人材の育成を図るために、環境保全に係る実践的活動を通して関心を高めるとともに、基本的な知識・技能の習得を図ることを目的としました。



講話「九州北部豪雨の被害について」

豪雨被災者の伊藤睦人さんが講話を行いました。朝倉市松末地区に生じた豪雨被害の甚大さを、動画を交えながら伝えました。講話の最後に、普段から地域住民同士のつながりをつくることや、感性を磨き、自然や天気の変化を感じ取られるようになることの大切さを訴えました。



講話「地域復興とボランティアの力」

豪雨後、復興活動に携わった望月文さんが講話を行いました。望月さんは、まず、災害ボランティア活動の意義や役割、心構え等を話しました。そして、自身のボランティア体験や社団法人を立ち上げた経験を基に、地域復興への携わり方は多様であり、地域課題は柔軟な発想によりプラスに変えられることを伝えました。





「災害ボランティア体験」

豪雨の被災地に赴き、農園に流れ込んだ土砂の搬出や、復興のために引っ越しを余儀なくされた方の支援をしました。小グループでリーダーやタイムキーパー等の役割を決め、課題の解決方法を話し合いながら作業をしました。受講生の方から積極的に被災した方に話しかける場面も見られました。



参加者の声

- 豪雨の恐ろしさを改めて理解できた。いつ災害が起きるのか分からないので、日頃から自分の地域に目を向け、準備をしていきたい。
- 求められているものは何かを考え、行動することの大切さを学べた。自主性や行動力を大切にして過ごしていきたい。
- ボランティアは1人でするものではなく、地域の人と行うもので、協力していくためのコミュニケーションが大切だと分かった。



全体を通して

3年計画であった環(CAN)ボラプロジェクトの最後の年でした。近年、毎年のように大きな豪雨災害が生じているため、このたびの事業は、災害復興支援に携わるボランティアの育成を目指しました。

被災した方、復興に携わっている方の講話を通じて、受講生は、災害の恐ろしさを実感するとともに、どのような支援が必要なのかを考えることができました。また、実際にボランティア活動を行い、やりがいや喜びを体験しました。特に、災害ボランティアは土砂かき等の力仕事だけではなく、被災者との会話が大切な役割であることを理解し、実行できました。

この体験が、自分の住んでいる地域に目を向けるきっかけになることを願っています。